

子宮頸がん検診啓発「子宮の日」活動報告

子宮頸がんを考える市民の会と細胞検査士会による子宮頸がん検診啓発活動(LOVE 子宮プロジェクト)「子宮の日」キャンペーンが、全国的に展開され、去る4月9日(土)熊本県臨床検査技師会と細胞検査士会熊本県支部の協力により、熊本県においても今回はじめてこの活動に参加しました。(配布された、「LOVE49」のTシャツなどを着用)

場所は、上通り「びぶれす広場」前と下通りマルタ号前付近の2班に分かれて、13時～16時の3時間にわたり、若い女性に向けて、ニューズペーパーとしおり、ハーブの種、子宮頸がんについての小冊子を入れた袋を1500部すべて配り終わりました。

罹患率の高い若年層に、子宮頸がん予防の為の知識を広め、検診受診率の向上につながるよう訴えかけ、中には、細胞検査のことをくわしく尋ねられる場面もあり、来年への手ごたえを感じながら、無事活動を終えることができました。

当日、出動された会員の皆様ご協力有難うございました。内容は、翌日の熊日朝刊にも掲載されました。



子宮がん検診
大事だよ



熊本朝刊 平成23年(2011年)4月10日 日曜日

正しい知識で予防を 子宮頸がん

細胞検査士会県支部と県臨床検査技師会は「子宮の日」の9日、熊本市の上通、下通アーケードで、子宮頸がんを正しく知り、積極的に検診を受けるよう呼び掛けた。

子宮頸がんはヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が原因で発症。HPVワクチンと検診を併用することで予防効果が高まるが、特に若い女性の検診受診率は低いという。

がん細胞の有無を顕微鏡で調べる細胞検査士会は2009年から全国的に「子宮の日」に合わせた啓発をしているが、県内での街頭活動は初めて。この日は、16人が子宮頸がんや予防法について説明したパンフレットなどを女性に配布した。

河野公成支部長は「検診でがんを早期発見できれば子宮を温存することができる。ぜひ検診を受けてほしい」と話している。

(舞永淳子)

街頭で検診呼び掛け 細胞検査士会など



通りを歩く女性に子宮頸がんのパンフレットを配る細胞検査士会県支部のメンバーら
=熊本市の上通アーケード



出勤者名	施設名	出勤者名	施設名
河野 公成	熊本市市民病院	坂本 康弘	熊本赤十字病院
田邊 智子	熊本市市民病院	嶋村 千帆	熊本市医師会検査センター
内田 衣里子	熊本市市民病院	松岡 拓也	済生会熊本病院
徳永 英博	熊本大学病院病理部	宇佐美 祥子	(財)熊本県総合保健センター
石原 光浩	熊本大学病院病理部	中島 浩二	(財)熊本県総合保健センター
立山 敏広	熊本中央病院 病理研究科	北田 沙優理	(財)熊本県総合保健センター
吉野 歩	国立病院機構 熊本医療センター	木庭 真女	(財)熊本県総合保健センター
正代 敦子	国立病院機構 熊本医療センター	杉谷 由幾	日赤熊本健康管理センター

(文責：日赤熊本健康管理センター 杉谷 由幾)